

連載：原点

## 失敗を糧にして

東葛飾高等学校 鈴木 和馬

私が教員になりたいと思ったきっかけは高校時代にあります。高校1年生までは特に将来の夢もなく、ただ部活に明け暮れる日々を過ごしていました。高校2年生の時、数学の先生が主体的且つ丁寧な授業をしてくださり、複雑な三角関数や微積分の問題を、1つ1つ論理的に考えて解き切ることができたことを今でも覚えています。そのとき、達成感を味わい、数学が面白いと感じることができました。その先生が進路に関しても親身になって相談に乗ってくださったことから、将来に迷った生徒に対して自分も同じように手助けしたいという思いが芽生え、教員になろうと決心しました。

東葛飾高校での教員生活も4ヶ月ほどが経ちました。正直、自分が「こんな教員になりたい」と思い描いていたものとは全く異なり、うまくいかないというのが率直な感想です。授業に関して言えば、千葉県でも有数の進学校ということもあり、他の先生方の授業スピードは驚くほど速いです。しかし文系理系の混合クラスでは数学の苦手な生徒も多く、どのレベルに合わせるか今でも答えを出せず試行錯誤する日々が続いています。生徒のレベルも高いため、中途半端な準備では生徒は信頼して授業を聞いてはくれません。7月までの授業では、まだまだ教材研究が不十分であったと痛感しています。これからも教材研究を進め、他の先生方の授業や意見も参考にしながら自分で納得のいく授業を作っていきたいと思います。

もちろん、教員になって嬉しかったこと、よかったなど感じることも多々ありました。生徒から「授業がわかりやすい」と言ってもらえることもあり、とても嬉しく感じました。部活動に関しても「先生がきてくれてよかった」と言ってもらえることができ、もっと頑張ろうと前向きになることができます。また、東葛飾高校ならではの、私は高校2年生の授業だけでなく中学3年生の幾何の授業も担当しています。中学生と高校生では授業の進め方も生徒の特徴も全く異なり、戸惑いも多くあります。しかし多くの生徒と関われるこの環境は必ず今後の自分のためになると実感しています。

実際に教員になってみて、失敗ばかりで落ち込むことも多々あります。今まではそれを表に出してしまうことが何度かありました。しかしそんなことは生徒に関係ないと今は思っています。どんなときでも生徒には明るく笑顔で接すること、そして自分自身が毎日楽しく生活することを頭に入れて、日々過ごしていけたらと思います。そしてたくさんの失敗を糧にし、生徒や他の先生方からたくさんのものを吸収して成長していければと思います。